



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

6. 簡易被覆栽培「シャインマスカット」の無核化のためのストレプトマイシン処理適期

[要約]

簡易被覆栽培「シャインマスカット」の無核化のためのストレプトマイシン処理は、満開 10 日以前に行うと無核化率が高い。処理適期である満開 14 日前から満開 10 日前頃は、本葉の展葉枚数がおおむね 9 枚程度であるため、処理時期の目安にできる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室、高冷地研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「シャインマスカット」では無核化するために開花前にストレプトマイシン処理を行うが、簡易被覆栽培において有核果粒の混入が問題となることがある。そこで、果樹研究室（赤磐市神田）及び高冷地研究室（真庭市蒜山）の簡易被覆栽培「シャインマスカット」を用い、ストレプトマイシン処理時期と無核化率の関係及び展葉枚数と満開前日数との関係を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ストレプトマイシン処理を満開 10 日前に行うと、満開 5 日前及び満開 1 日後と比べて無核化率が高く、果粒当たりの有核数が少ない。また、しいな数には差はない（表 1）。
2. 満開前日数と本葉の展葉枚数との関係をみると、無核化率が高く、処理適期と考えられる満開 14 日前から満開 10 日前では、本葉の展葉枚数がおおむね 9 枚になる（図 1、図 2）。
3. 果実品質は、果粒重及び糖度にストレプトマイシン処理時期による差はない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 新梢基部の葉幅あるいは葉長が 1 cm 以下の小さな葉は数えず、完全に展葉した本葉の枚数のみ数え、新梢当たりの展葉枚数とした。
2. ストレプトマイシン剤のブドウの無種子化の農薬登録における使用時期は、満開予定日の 14 日前から満開期（開花始期から満開期は花房浸漬による第 1 回目ジベレリン処理との併用のみ）である。
3. 1 樹当たり 4 主枝を選び、連続する 10 芽座から伸びる新梢（1 芽座から 2 新梢発生している場合は強い新梢）について、おおむね 5 日毎に展葉枚数を数えた結果である。
4. 花穂の満開日は、整形した花穂の 8 割の花蕾が開花した日とし、樹の満開日は満開を迎えた花穂が樹全体の 8 割を超えた日とした。



[具体的データ]

表1 ストレプトマイシン処理時期の違いが「シャインマスカット」の無核化率に及ぼす影響（2019年 果樹研究室）

区	無核化率 (%)	有核数 ^z (個/粒)	しいな数 ^z (個/粒)
満開10日前(5/20)	97.0 a	0.04 b	0.4
満開5日前(5/25)	84.0 b	0.18 a	0.5
満開1日後(5/31) ^y	84.0 b	0.19 a	0.5
有意性 ^x	**	*	ns

^z 縦径が6mm以上を「種子」、縦径が2mm以上6mm未満を「しいな」として計測

^y ストレプトマイシン200ppmと満開期処理(ジベレリン25ppm+フルメット5ppm)を混用処理

^x Tukey法(無核率はアークサイン変換後)により、表中の異英文字間には

**は1%水準、*は5%水準で有意差あり。nsは5%水準で有意差なし

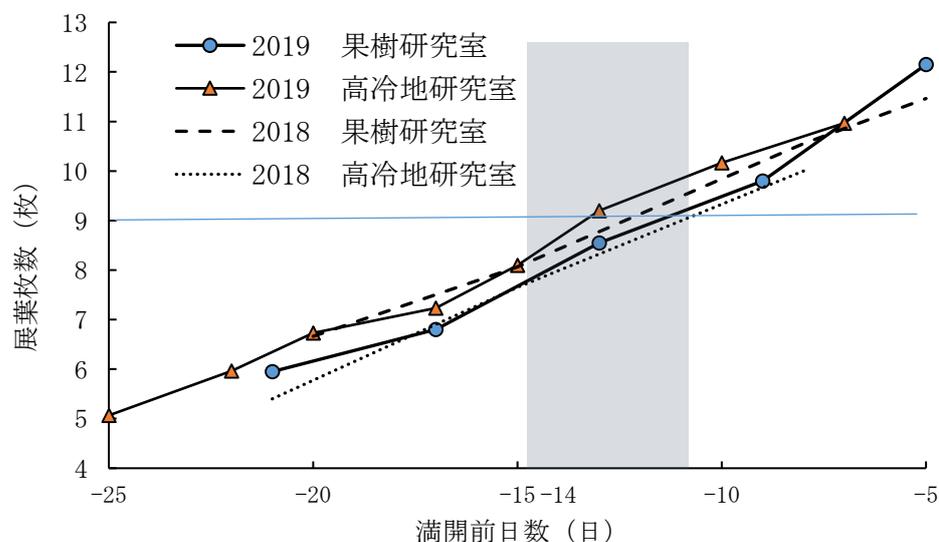


図1 「シャインマスカット」の栽培地及び年次の違いによる満開前日数と本葉展葉枚数との関係（2018年、2019年）



図2 展葉の目安

[その他]

研究課題名：「シャインマスカット」の無核率向上技術の確立

予算区分・研究期間：県単・平30～令元年度

研究担当者：藤原聡、平井一史、中島譲、安井淑彦、久保田朗晴

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平20\(35-36\)](#)